

第6回エコチル調査シンポジウムの報告

1. 準備における留意点

1) シンポジウムのコンセプト

研究成果の発表及び「母親以外も含めた子育て参加」をテーマとしたセッションを盛り込む。

2) 発信するメッセージ

エコチル調査と子育てをテーマにするにあたり、唐突感を排除するため、以下のメッセージを出すことに努める。

- ・子どもの健康や成長を考えたとき、影響を与え得る様々な要素があり、エコチル調査はその様々な要素を調べ、根拠に基づいた情報を提供するものである。
- ・環境を作る側、母親、父親、様々な人たちが関わることで、明日を生きる子供たちを育てていく

3) 昨年度の来場者アンケート結果からの還元

- 「子育てに関連する調査のイベントなのに登壇者が男性ばかりなのはなぜか」という意見を踏まえ、登壇者のジェンダーバランスを考慮した。
- 「投影されたスライドが小さくて見えない」との意見を踏まえ、吊り看板をなくし、投影面積の最大化に努めた。
- 「子どもが場内にいてうるさかった」、「子どもと一緒に入りたかった」というそれぞれの意見があったため、場内にファミリーシートを設け「子育てを応援するイベントでもある」姿勢を打ち出した。

※昨年度も子どもの入場を禁じてはおらず、実際に子どもも入場していたので、来場者の勘違いもしくは周知不足の可能性あり。

2. シンポジウムの概要

- ・日時：2017年2月18日（土）14:00～16:10
- ・場所：江戸東京博物館ホール
- ・ゲスト：山根良顕さん（アンガールズ）
- ・ファシリテーター：日本科学未来館 科学コミュニケーター
- ・体制

主催：環境省 国立研究開発法人国立環境研究所

後援：国立研究開発法人国立成育医療研究センター

・プログラム

【基調講演】エコチル調査の概要 — 生活環境からわかったことの紹介 —

新田 裕史 氏 (エコチル調査コアセンター長代行)



【特別講演 (対談)】新米パパから見た子育てについて

山根 良顕 氏 (タレント アンガールズ)

大矢 幸弘 氏 (エコチル調査メディカルサポートセンター特任部長)



【パネルディスカッション】子育てを支える色々な立場から見た子育てと生活環境
コーディネーター

山縣 然太朗 氏 (エコチル調査甲信ユニットセンター長)

パネリスト

山根 良顕 氏 (タレント アンガールズ)

櫻井 香澄 氏 (エコチル調査宮城ユニットセンター)

藤谷 宏子 氏 (日本小児科医会理事)

新田 裕史 氏 (エコチル調査コアセンター長代行)



2. 広報活動

1) 広報先

エコチル調査第6回シンポジウム広報先一覧

※赤文字:今年度の新規広報先。

①ポスター・チラシの配布

		第6回実績		(参考)第5回シンポジウム		備考
		ポスター	チラシ	ポスター	チラシ	
エコチル調査関連機関	環境省	5	200	5	-	
	国立環境研究所	5	-	-	-	
	国立成育医療研究センター	3	50	3	50	
	UC、SUC、パイロットUC コアセンター、MSC委嘱委員の大学	44	1,250	-	-	
調査参加者	千葉UC	-	5,500	-	-	
	甲信UC	-	4,100	-	-	
会場周辺地域	江戸東京博物館	-	-	-	-	
	日本科学未来館	-	50	3	500	
	託児業者運営保育所	3	300	3	600	
	タウン誌(折込)	-	52,200	-	47,000	
教育機関 イベント	児童、家政系の専攻がある大学	67	3,350	-	-	関東地区67大学
	1/25日本疫学会	-	300	-	-	
	2/11乳幼児学校保健研修会	-	230	-	-	日本小児科医会主催(演者:山縣先生)
	2/11成育医療研究センター講演会	4	400	-	-	NPO主催(演者:斎藤先生、大矢先生)
	2/16大気環境対策セミナー	-	170	-	-	環境再生保全機構主催(演者:新田先生)
エコチル調査国際シンポジウム	-	-	-	200		
その他	自治体の化学物質担当部署	20	1,000	-	-	関東地区の都県政令市PRTR窓口20箇所
	都内環境学習施設	12	600	-	-	CEISと交流のある都内施設
	環境情報科学学会員	-	950	-	-	機関誌にチラシを折込
	主婦会館(主婦連)	1	50	-	-	
配布数計	170	70,850	14	48,350		

②プレスリリース配信、雑誌・新聞

		第6回実績	(参考)第5回シンポジウム	備考
プレスリリース配信	@Press	382メディア	365メディア	WEB掲載96サイト(第6回)
新聞	朝刊紙への広告掲載	-	24万部	

③ホームページ、メールマガジン(メーリングリスト)での告知

		第6回実績	(参考)5周年記念	備考
エコチル調査関連機関	環境省報道発表	○	○	
	エコチル調査HP、メールマガジン	○	○	
	国立環境研究所HP、メールマガジン	○	○	
	国立成育医療研究センターHP、メールマガジン	○	○	
	UC、SUCのHP、メールマガジン	○	○	
会場関連	江戸東京博物館	-	-	
	日本科学未来館	-	○	
学会	9学会(新規1学会) 日本小児科学会、日本小児科医会、日本産科婦人科学会、日本リスク研究学会、日本公衆衛生学会、環境ホルモン学会、日本衛生学会、日本小児内分泌学会、 大気環境学会	○	○	ホームページへの情報掲載 メールマガジンへの情報掲載
	環境情報科学センター	○	○	メーリングリストへの情報掲載
業界団体	日本化学工業協会	○	-	
環境・科学ポータルサイト	7サイト 環境goo、EICネット、環境らしんばん、環境新聞社、環境-job.net、環境情報ステーションpico、JSTサイエンスポータル	○	○	ホームページへの情報掲載
	親子イベント情報サイト	9サイト 親子の日、いこーよ、ジモティー、キッズイベント、こくちーず、イベントバンク、イベントナビママ、おでかけガイド、イベントコンシェル	○	○
環境省所管機関	環境再生保全機構	○	○	ホームページへの情報掲載 メールマガジンへの情報掲載

④その他

		第6回実績	(参考)第5回シンポジウム	備考
著名人サポーター	12名への掲載依頼	掲載等3名	掲載3名	1/5エリック・ジェイコブセンさんフェイスブック、1/12川野太郎さんブログ、2/2尾木先生ブログ

2) 参加者内訳

(人)

	事前申込者	当日来場者			(参考) 前回参加者数
		事前申込	当日申込	合計	
一般	135	108	8	116	163 (当日32)
(うち企業・業界団体)	(39)	(33)	(1)	(34)	
(うち教育・研究機関)	(18)	(15)	(0)	(15)	
(うち行政機関)	(5)	(3)	(0)	(3)	
(うちNPO・市民団体)	(0)	(1)	(0)	(1)	
(うち医療機関)	(2)	(2)	(0)	(2)	
(うちその他)	(7)	(4)	(0)	(4)	
(うち所属先未記入)	(64)	(50)	(7)	(57)	
関係者	98	97	2	99	86
(うち講演者)	(7)	(7)	(0)	(7)	
(うち環境省・コアセンター・MSC等)	(34)	(33)	(2)	(35)	
(うちユニットセンター)	(57)	(57)	(0)	(57)	
プレス	7 (6社)	5 (4社)	1 (1社)	6 (5社)	14
合計	240	210	11	221	

来場者数の分析

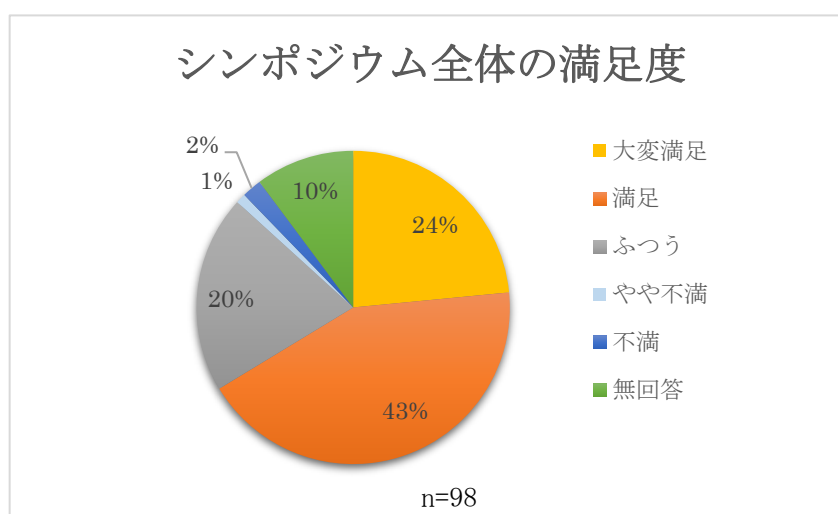
- ・会場での呼び込みが禁止されていたので「当日申込」が前回と比較して減少した。
- ・会場の交通の便がよく、前後に立ち寄る場所もありよかったといった意見があった。

3) 来場者へのアンケート結果

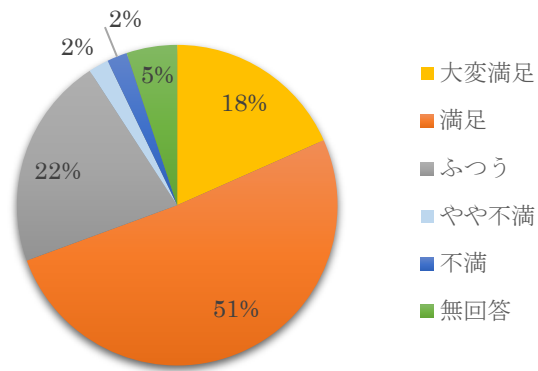
①来場者の満足度

来場者アンケート（回答数 98）の結果では、シンポジウム全体、基調講演、特別講演（対談）、パネルディスカッションの何れも、「大変満足」と「満足」を合わせ約7割が「満足」としている。

「やや不満」と「不満」を合わせた「不満」は3～8%で少数となっている。

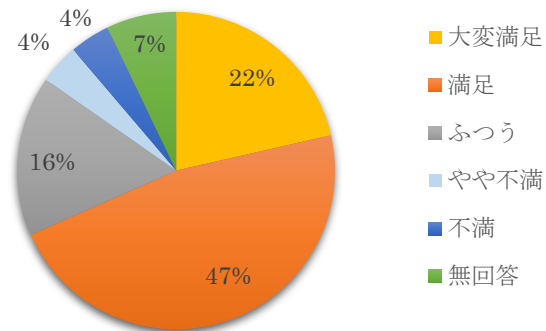


基調講演の満足度



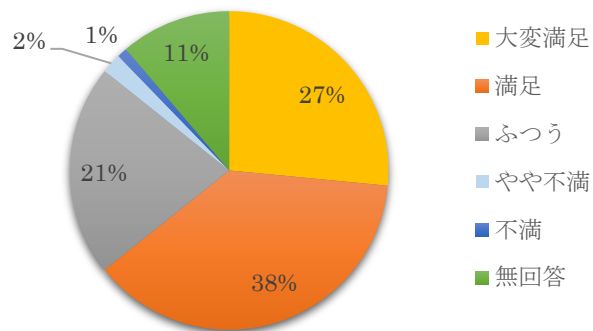
n=98

特別講演（対談）の満足度



n=98

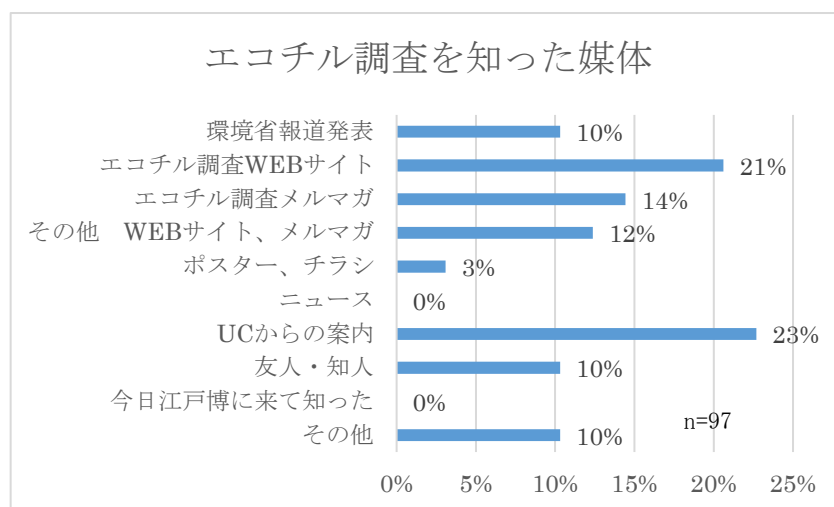
パネルディスカッションの満足度



n=98

②シンポジウムを知った媒体

「ユニットセンターからの案内」を除き、「エコチル調査 WEB サイト」などの電子媒体を通じた認知が比較的多くなっている。



③来場者の具体的な意見

※来場者へのアンケートをもとに、今後のシンポジウムの開催に向けて参考になる意見を抽出（一部、言葉を補っている場合がある）。なお、回答にはエコチル調査関係者の回答が含まれることに留意が必要。

<企画・発表内容等に関する意見とその対応の可能性>

- ・資料を配布してほしい。
- ・調査の進捗状況を具体的に説明してほしい。
- ・化学物質の調査結果を早く公表してほしい。
- ・エコチル調査の成果をどう子育てに活かしていけばよいのか教えてほしい。
- ・各講演とも時間が短かった（内容はよかった）。
- ・専門的とまではいなくても、素人向け過ぎのように感じる。
- ・とても楽しめ、よく練られたプログラムだった。
- ・毎年、より興味深い内容になっている。
- ・一般の目線を入れた企画が大切。
- ・調査参加者の声も聞いてみたい。

<開催地・開催方法等に関する意見とその対応に関する可能性>

- ・子連れで講演を聞くのは難しいのでキッズルームを設置して、そこからビデオ中継が見られるとよい。
- ・成果の発表をインターネットで見ることができるようしてほしい。
- ・自分の調査参加へのモチベーションを保つためにも参加できるイベントがあったら参加したい。

- ・各調査地区でこのようなシンポジウムを開催してもらいたい。

< 広報活動に関する意見とその対応に関する可能性 >

- ・参加者がもう少し増えるとよい。
- ・そろそろ子どもにもどのような調査に参加しているのか説明したいので、子ども向けのおはなし会やリーフレットがあるとよい。
- ・重要な調査なのでもっと積極的に広報活動をやってほしい。

4. 次年度に向けた課題

1) 研究成果の発表

中心仮説に関する成果を一般国民が理解しやすい内容で正しく伝わるように準備する。

2) 対象者の明確化

「中心仮説に関する成果を含めたエコチル調査成果の国民向け発表の場」と位置づけた場合、一般の市民とのリテラシーに差異が生じる可能性がある（成果発表の内容が難しくなる）。シンポジウムの対象者を明確化し、それに合わせた準備するための検討が必要と考えられる。

3) 広報先及び広報媒体の再検討

参加者の増加に結びつけるため、参加者の多かった「企業・業界団体」や「教育・研究機関」に向けた広報活動を充実させる、また「シンポジウムを知った媒体」として比較的多かったインターネットを活用した電子媒体を更に積極的に活用するなど、広報先と媒体のウエイト付けを行うなどして、より幅広く効率的な広報活動を展開する必要と考えられる。